

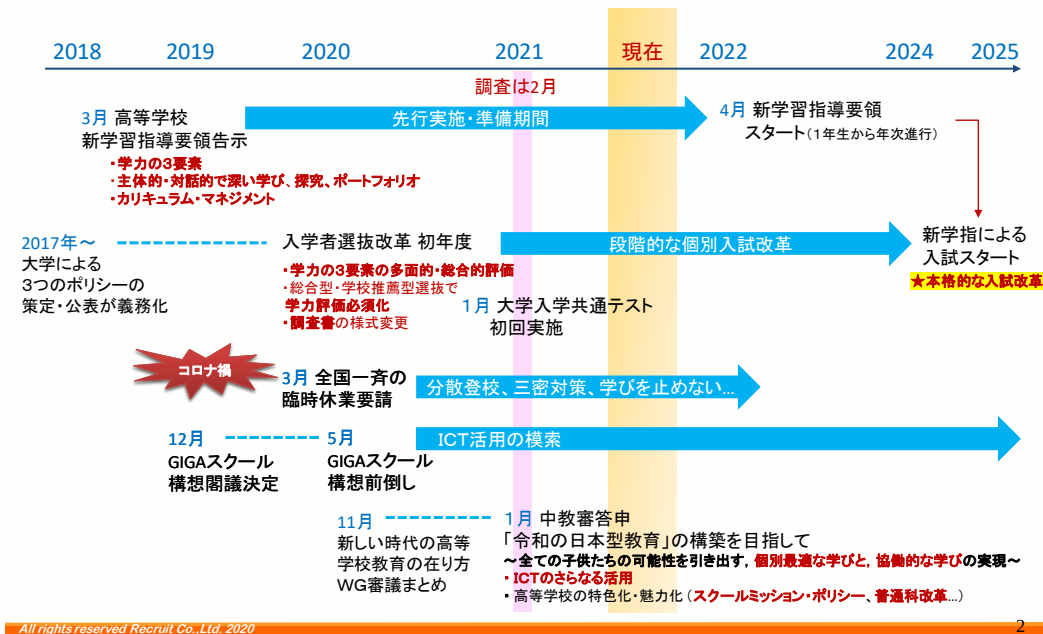
コロナを超え、いざ、次のステージへ

教育、進路指導を どう転換していくか？

「高校教育改革に関する調査 2021」
調査レポートから見えてきた
“これから”につながる3つの兆し+その先へ



この数年の、高校を取り巻く状況



高校教育改革に関する調査 2021

・キャリアガイダンスが隔年で実施している高校向け調査(第21回目)

※前回は2018年、本来は昨年実施予定でしたがコロナ禍で今年の2月に延期

・進路指導、キャリア教育 ～ 近年は教育改革に関するテーマも

※第19回目までの名称は、「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」

< 調査概要 >

- 調査対象 全国の全日制高等学校 4,738校
- 調査方法 郵送調査 + インターネット調査
※校長先生宛に調査票を郵送、回答を記入の上郵送またはWebから回答
- 調査期間 2021年2月1日（月）～3月5日（金）
- 有効回答数 1,156件（回収率24.4%）
※郵送 468件（40%）、Web 688件（60%）

3

All rights reserved Recruit Co., Ltd. 2020

3

調査から見てきた3つの“兆し”+その先へ

1.

コロナ禍で鍛えた「変化対応力」は、“これから”に活かすことができる

2.

入学者選抜改革、新学習指導要領・・・教育改革への取組が変化しつつある

3.

社会や教育の変化を受けて、
進路指導・キャリア教育にも次の進化が求められている

+

New

スクールポリシーの策定や普通科改革に対しては賛否両論、
まさにこれから各学校がどうしていくか、議論していく過渡期に

4

All rights reserved Recruit Co., Ltd. 2020

4

調査から見てきた“兆し”【1】

コロナ禍で鍛えた「変化対応力」は、
“これから”に活かすことができる

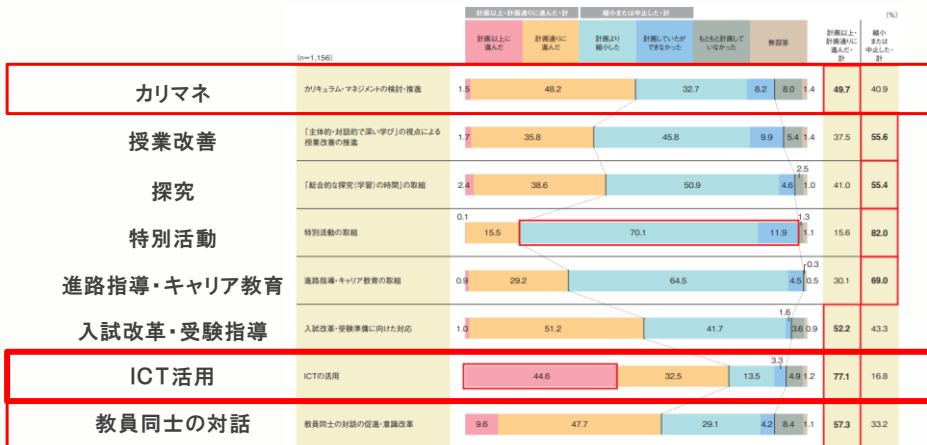
All rights reserved Recruit Co., Ltd. 2020

5

5

コロナ禍の、学校運営への影響

- ・「特別活動」「進路指導・キャリア教育」を始め教育活動が軒並み変更・縮小の中、
「ICTの活用」「教員同士の対話」「カリマネ」が計画以上・通りに進展。
- ・見直しを機会に変え、「大切なことは何なのか」という本質を改めて話し合い、
“例年通り”ではない改善や改革を進める学校も。



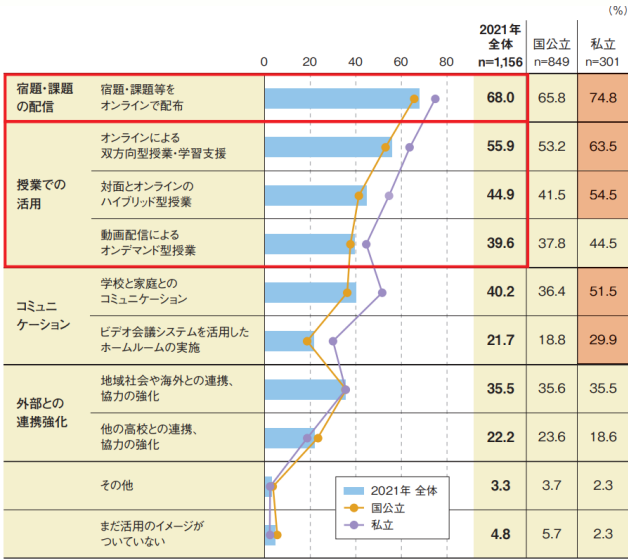
All rights reserved Recruit Co., Ltd. 2020

6

6

ICT・今後の活用イメージ

・宿題配信、授業での活用(双方向、対面とのハイブリッド、動画配信)、コミュニケーション



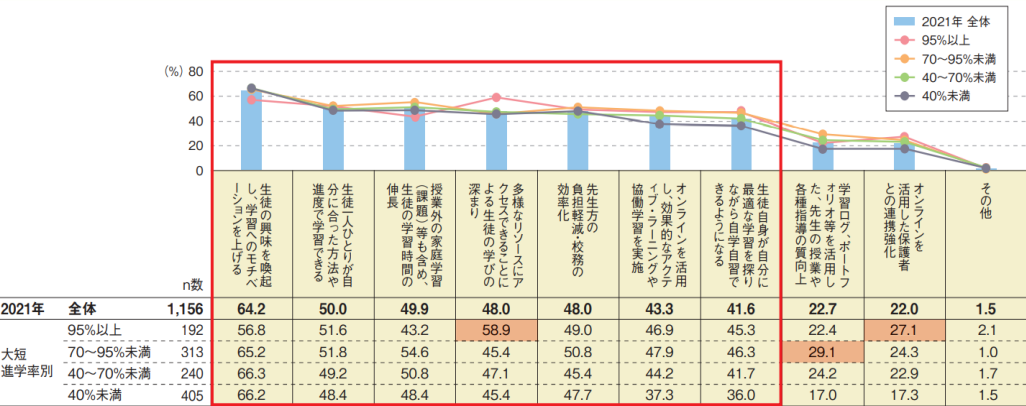
All rights reserved Recruit Co., Ltd. 2020

7

7

ICT・狙いたい効果・変化

- ・「興味喚起・モチベーションアップ」を筆頭に、「個別最適化」「学習時間の伸長」など幅広い効果が期待されている
- ・進学率95%以上では、「多様なリソースにアクセスすることによる生徒の学びの深まり」



※「2021年 全体」の降順ソート

※「2021年 全体」より5ポイント以上高い数値を色で表示

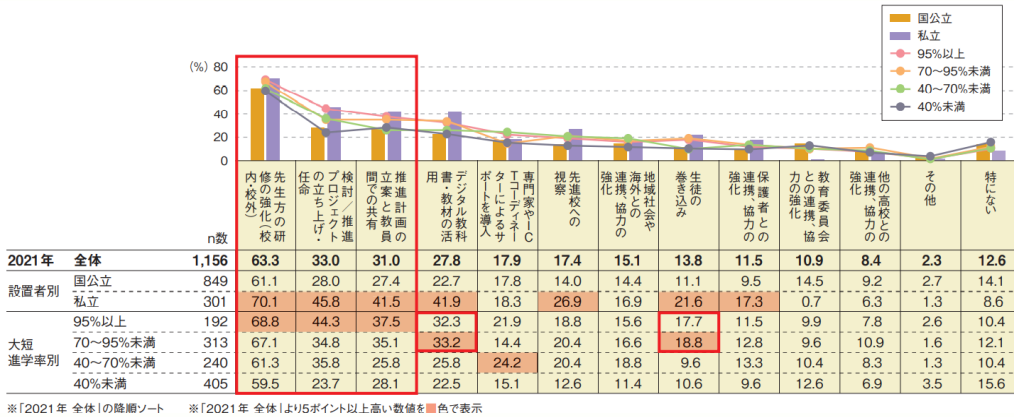
All rights reserved Recruit Co., Ltd. 2020

8

8

ICT・推進のためにやっていること

- ・まずは「**先生方の研修の強化（校内・校外）**」が突出（63％）
- ・傾向としては、**私立＞公立、進学校＞多様校**

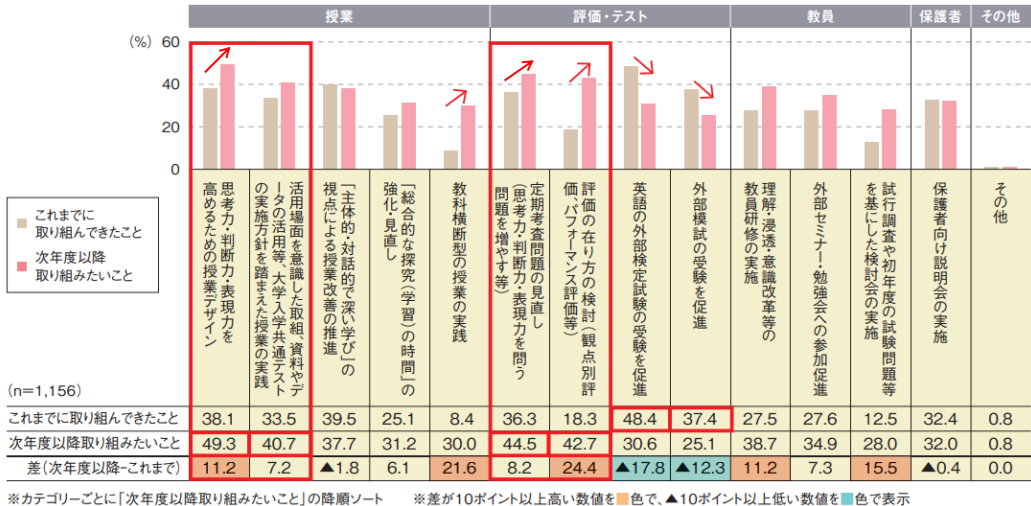


調査から見てきた“兆し”【2】

入試改革、新学習指導要領・・・
教育改革への取組が変化しつつある

「大学入学共通テスト」への対応

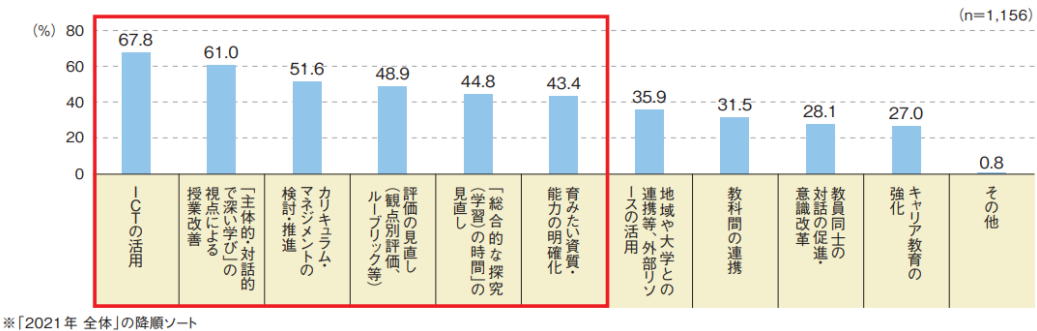
- これまでの「英語外部検定」「模試の受験促進」といった**表層的な対策**から、
次年度(2021年度)以降は「**授業**」「**定期考査**」「**評価**」の見直しなど、より**本質的な取組**へ



11

「新学習指導要領」に向けた対応

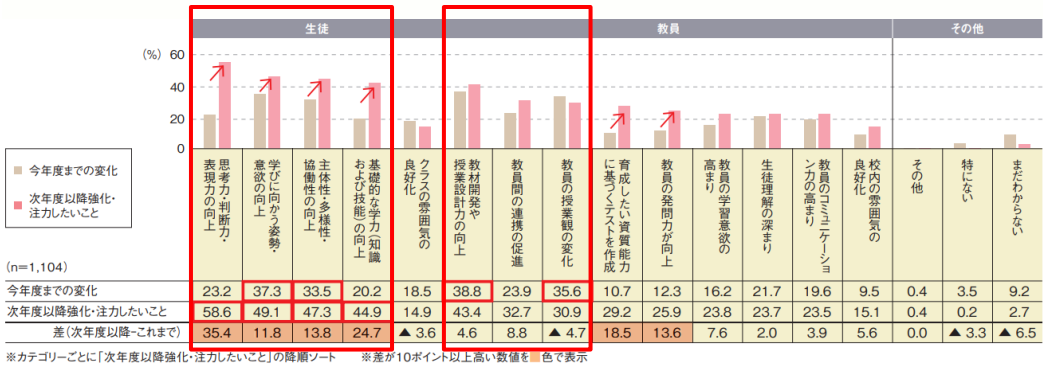
- 「ICT活用」をベース(手段)に、「**授業改善**」「**カリマネ**」「**評価の見直し**」を推進
- 上位項目は、前ページの「共通テスト」への対応とも重なる。
この2つは表裏一体であり、ここにきてその**方向性**が**つながり**、**高校現場が本質的な教育の転換に向けて進みつつある**兆しではないか



12

授業改善による変化

- ・“これまで”の変化の上位は、**教員**が多かった
 (「教材開発や授業設計力の向上」「授業観の変化」など)が、
 - ・“これから”の変化は、**生徒**「思考力・判断力・表現力の向上」、**生徒**「学びに向かう姿勢・意欲の向上」、**生徒**「主体性・多様性・協働性の向上」…と**生徒中心**に
- 【**教員**】の授業観、授業設計力伸長を経て、【**生徒**】の**資質・能力の向上を目指す段階**に



調査から見てきた“兆し”【3】

社会や教育の変化を受けて、
 進路指導・キャリア教育にも
 次の進化が求められている

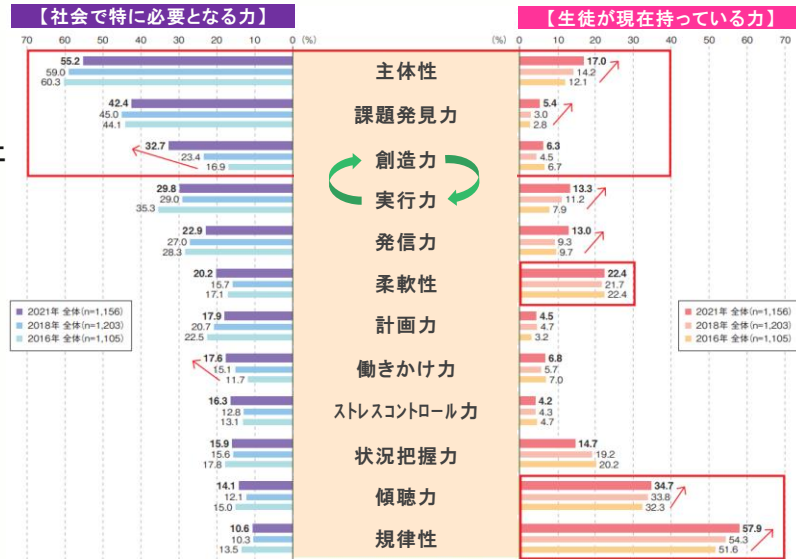
社会で必要となる力／現在持っている力(社会人基礎力)

【必要となる力】

「主体性」
「課題発見力」
に加えて、
「**創造力**」が3位に
(前回+10pt)

【持っている力】

上位の顔ぶれに
変化はないが、
「**主体性**」
「**課題発見力**」
「**実行力**」
「**発信力**」が伸長



All rights reserved Recruit Co., Ltd. 2020

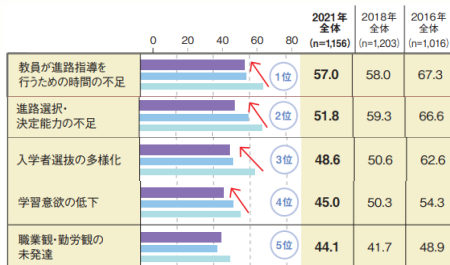
15

15

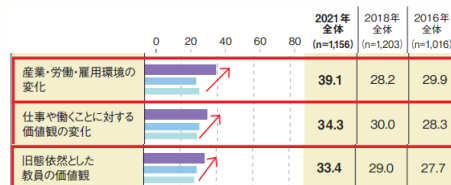
進路指導における課題

- ・上位の顔ぶれは前回と変化ないが、いずれもスコアは低下
- ・逆に伸びている課題は、「**産業・労働・雇用環境の変化**」「**仕事や働くことに対する価値観の変化**」「**旧態依然とした教員の価値観**」。社会の急激な変化をコロナが加速させる中、教員の価値観も含め、**進路指導の変化が追いついていないという危機感**が表れている

<上位5項目>



<昨年から伸びている上位3項目>



- ・教育そのものが、コロナ禍やICT、入試改革や新学指によって本質的な変化を起こそうとしている今、進路指導も、**社会環境の変化を受け止めて進化する転換点にある**

All rights reserved Recruit Co., Ltd. 2020

16

16

調査から見えてきた3つの“兆し” + その先へ

New

1404

「スクールポリシーの策定」
「普通科改革」に対しては賛否両論、
まさにこれから各学校がどうしていくか
議論していく過渡期に

All rights reserved Recruit Co., Ltd. 2020

17

17

「スクール・ポリシー」策定に対する考え

・「賛同する」「どちらかという賛同する」学校が合計で **82%**

		賛同する・計		賛同しない・計			
		賛同する	どちらかという賛同する	どちらかという賛同しない	賛同しない	無回答	
2021年	全体 (n=1,156)	28.2	53.4	11.2	5.1	2.2	81.6
設置者別	国公立 (n= 849)	25.4	54.8	13.0	4.7	2.1	80.2
	私立 (n= 301)	35.9	49.5	6.3	8.0	2.3	85.4

・が、具体的なコメントには賛否両論が

「賛同する」理由

■学校の特色・方針を明確化できる

- ・学校として、あるべき姿、入学へ期待すること、卒業時のゴールを考え示すことは、学校としてのアイデンティティを確立することと同義であり、その議論の過程で教員間の意識が醸成されていくことが期待できる。

■教員間や生徒・保護者との意識合わせが可能

- ・学校教育目標もあるが、より具体的に定義した方が生徒、教員、保護者間での共通理解が得られる

■生徒の将来設計に役立つ

- ・「育てたい生徒像」や「学校の目指す姿」など、より具体的な学校の方針を示すことで、生徒自身が自らの将来設計がしやすくなるため。

■入学時のミスマッチを防ぐことができる

- ・学校ごとの特性が明確になり、進学を希望する生徒のミスマッチを減らすことができる。また学校も地域との連携を強化しやすくなる。

「賛同しない」理由

■表面的・単なる理想論である

- ・スクール・ポリシーは表面的、形式的なものとなり、**実際の教育活動に結び付かない**可能性がある。

- ・学校の教育方針や指導方針を明確化できる私立には意義があると思うが、**特色を打ち出しにくい公立には不向き**

■現状の多様性や将来の変化に対応できない

- ・掲げられた「スクール・ポリシー」にかえて**教育活動が制約されることを懸念**

- ・入学する高校で進路が決まってしまうのは**生徒にとっても意欲が低下**する。入学前に考えていたことと卒業後の進路が変わってもよいと思う。

■策定にかかる負担感

- ・この取り組みによる**教職員の業務負担増加に比して、教育活動の更なる充実化・改善が図れるという見通しが立ちにくい。**

All rights reserved Recruit Co., Ltd. 2020

18

18

「普通科改革」に対する考え

・「賛同する」「どちらかという賛同する」学校が合計で **62%**

			賛同する・計		賛同しない・計		無回答			賛同する・計	賛同しない・計
			賛同する	どちらかという賛同する	どちらかという賛同しない	賛同しない					
2021年	全体	(n=1,196)	18.0	46.1	26.8	8.9	2.2	62.1	35.7		
設置形態別	国公立	(n= 849)	14.6	44.6	29.4	9.0	2.4	59.2	38.4		
	私立	(n= 301)	19.6	50.2	19.9	8.6	1.7	69.8	28.6		

・こちらも具体的なコメントには賛否両論があり、議論はまさにこれから

「賛同する」立場からの意見

■現状の普通科に課題感がある

- ・「普通科が良い」と思われがちだが、**実態は問題が多く**、普通科改革は社会全体の意識改革が必要である。

■「改革」が普通科の再定義につながる

- ・「普通科」とは何か、再定義が必要。専門学科と比較して、**普通科にはどのような特色があるのか**、部活動と大学進学以外に語ることでできる魅力がないのではないか。
- ・地域の学校は、これからの少子化で**生き残りをかけて特色をつくり出していかないといけない**と考える。

■改革には賛同するが、そのためには...

- ・改革を推進するためには、**全教員の協力や資質向上が必須**であると思います。そのための、研修やモデルケースの提示が必要。
- ・改革の趣旨はよく理解しているが、**その先にある入試改革や社会のしくみ等も変える必要がある**と思う

「賛同しない」立場からの意見

■リベラルアーツの観点から

- ・普通科には存在意義がある。高校段階では**何かに限定せず、多様に学ぶリベラルアーツが大切**。
- ・専門に特化することが良いことばかりではない。高校では多くのことを広く学び、その後専門的なことを学ぶという**従来の発想でよい**と思う

■生徒にとって進路選択が複雑化する懸念

- ・中学校段階で、**コース判断ができるか疑問**。義務教育とはちがった、教育を受けた上でコースを判断するので十分。

■教員の負担感

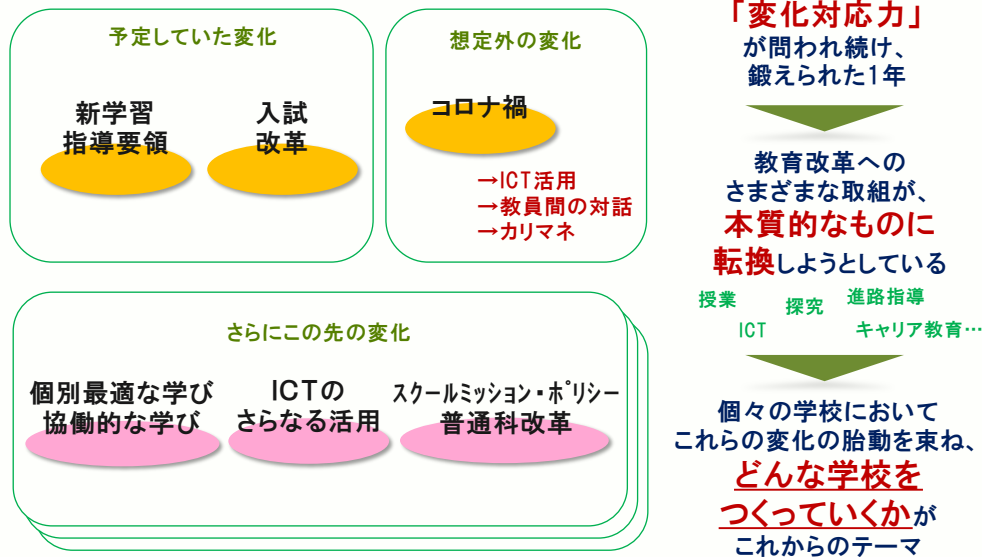
- ・ほぼ全員が進学する高校において、全高校で特長を打ち出すことは難しい。無理に特長を打ち出そうとしても、どの学校も似たり寄ったりになってしまう。その**策定のための努力が教師を苦しめる**。

All rights reserved Recruit Co., Ltd. 2020

19

19

【まとめ】“これから”の学校づくりに向けて



All rights reserved Recruit Co., Ltd. 2020

20

20